

各教育事務所の調査結果

球磨教育事務所

- 1 教科に関する調査の結果
 - (1) 教科に関する調査の結果概要
 - (2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校、中学校）
- 2 質問紙調査の結果
 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果
 - (2) 学校に対する調査の主な結果
 - (3) 質問紙調査に関する成果と課題
- 3 今後の重点取組

1－(1) 教科に関する調査の結果（公立小中学校）

本管内の概要

- ・ 小学校では、**理科は全国平均とほぼ同じ状況である。国語と算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語・数学・理科すべて全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】		
	国語	算数	理科
管内	64%	61%	63%
県	65%	62%	63%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

	【中学校3年生】		
	国語	数学	理科
管内	67%	50%	48%
県	68%	49%	49%
全国	69.0%	51.4%	49.3%

※表中の数値は平均正答率（%）、県の値は国から整数値で公表

1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（小学校）

成 果

国語 成果が見られた内容

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う【関連問題 3三イ】
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く【関連問題 3四】
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける【関連問題 3二】

算数 成果が見られた内容

- 二つの数の最小公倍数を求めることができる【関連問題 1(2)】
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる【関連問題 1(3)】
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる【関連問題 3(3)】

理科 成果が見られた内容

- メスシリンダーという器具を理解している【関連問題 2(1)】
- 水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している【関連問題 4(4)】
- 日光は直進することを理解している【関連問題 3(1)】

課 題

※赤色のアンダーライン（依然として課題である問題）

国語 課題が見られた内容

- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える【関連問題 2一(2)】
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える【関連問題 1二】
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える【関連問題 2一(1)】

算数 課題が見られた内容

- 分類整理されたデータを基に、目的に応じて、データの特徴を捉え考察できる【関連問題 3(2)】
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる【関連問題 1(4)】

理科 課題が見られた内容

- 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる【関連問題 2(3)】
- 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる【関連問題 4(3)】

1－(2) 教科に関する調査の成果と課題（中学校）

成 果

国語 成果が見られた内容

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く 【関連問題 2三】
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する 【関連問題 4三】
- 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する 【関連問題 1一】

数学 成果が見られた内容

- 自然数を素数の積で表すことができる 【関連問題 1】
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる 【関連問題 7(1)】

理科 成果が見られた内容

- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる 【関連問題 3(1)】

課 題

※赤色のアンダーライン（依然として課題である問題）

国語 課題が見られた内容

- 表現の技法について理解する 【関連問題 3一】
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える 【関連問題 3三】
- 論理の展開などに注意して聞く 【関連問題 1二】

数学 課題が見られた内容

- 反例の意味を理解している 【関連問題 3】
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる 【関連問題 8(2)】
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる 【関連問題 6(1)】

理科 課題が見られた内容

- 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる 【関連問題 5(2)】

2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。(最下部除く)

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
慣 基 等 本 生 的 生 活 習	朝食を毎日食べていますか	93.7	94.6	94.4	92.7	92.8	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.2	90.8	90.4	94.7	93.4	92.2
	普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか(「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」の割合)	21.6	29.4	30.7	22.3	24.6	29.8
自 規 挑 己 範 戦 有 意 心 用 識 、 感 等 達 成 感	自分には、よいところがあると思いますか	80.8	77.8	79.3	82.0	77.5	78.5
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.2	88.2	87.1	91.1	88.4	86.6
	将来の夢や目標をもっていますか	84.9	80.9	79.8	72.2	67.7	67.3
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.9	96.6	96.8	97.5	97.1	96.4
	学校に行くのは楽しいと思いますか	87.7	88.4	85.4	91.4	86.0	82.9
学 習 習 慣 等	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます。)	79.3	69.3	71.1	55.2	54.7	58.5
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。)(小学校は「30分以上」、中学校は「1時間以上」の割合)	91.3	85.1	85.2	66.2	66.1	69.5
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)(「10分以上」の割合)	59.8	55.8	59.6	43.2	42.6	48.6
	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(「そのままにしている」の割合)	17.6	15.5	11.6	12.1	14.6	10.9

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

2 - (1) 児童生徒に対する調査の主な結果②

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質問項目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
地域社会や	今住んでいる地域の行事に参加していますか	68.8	55.3	52.7	49.7	40.7	40.0
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	56.4	52.1	51.3	46.1	42.5	40.7
活用ICT機器の	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	44.8	50.1	43.9	29.8	44.1	37.2
	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	21.0	26.8	22.5	11.4	25.4	17.8
	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.4	95.2	94.4	97.2	94.4	92.6
主体的・対話的で深い学びの 学習の時間	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.2	59.4	65.4	58.7	54.3	63.3
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.1	74.7	77.3	72.7	73.0	79.2
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	81.0	78.4	80.1	79.2	76.9	78.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.4	76.8	78.2	73.2	70.5	74.7
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいましたか	78.4	73.2	72.7	79.3	71.3	72.1
理解度の	国語の授業の内容はよく分かりますか	84.7	85.1	84.0	79.9	77.1	81.2
	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	81.8	80.6	81.2	76.3	69.2	76.2
	理科の授業の内容はよく分かりますか	90.9	88.9	88.5	73.8	69.7	75.2

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

2 - (2) 学校に対する調査の主な結果①

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
指 生 導 徒	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	81.5	87.5	87.2	100	92.1	95.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	96.3	99.4	98.7	100	99.4	98.1
向 学 上 校 に 関 連 運 営、 教 員 の 資 質 の 状 況	校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	85.2	84.2	73.2	83.3	70.5	55.7
	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	96.3	95.1	94.8	100	92.7	91.3
	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	96.3	96.3	94.2	100	96.3	93.3
	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加含む)	92.6	83.8	76.0	100	88.6	73.0
に び 主 関 的 視 点 ・ 対 話 的 状 況 の 授 業 改 善	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	92.6	91.8	87.2	100	87.4	87.9
	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	85.2	78.3	75.1	100	78.9	80.7
	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	85.2	84.1	80.9	100	84.3	86.2
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100	91.8	88.0	100	93.4	88.2
家 庭 学 習	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	96.3	97.9	96.5	100	95.8	93.6
	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	96.3	93.9	89.7	100	95.2	86.9

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

2 - (2) 学校に対する調査の主な結果②

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目	小学校			中学校		
		管内	県	全国	管内	県	全国
ICT	調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	81.5	69.6	61.9	58.3	62.1	56.2
	調査対象学年児童生徒同士がやりとりがやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますかどの程度行っていますか（「ほぼ毎日」+「週3回以上」の割合）	40.7	42.4	31.3	25.0	40.9	27.8
小中連携	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	63.0	58.5	52.7	75.0	65.7	61.1
	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	77.8	51.5	48.2	91.7	65.1	58.0
の全学調の結果等活用	令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100	97.6	95.9	100	98.8	92.7
	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100	97.3	91.7	100	97.0	88.5
症新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 の 対 応	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童生徒に対する、夏季等の長期休業期間の延長、臨時休業、短縮授業・分散登校の期間中、家庭での学習としてどのようなものを行っていましたか（「全校で実施」+「一部の学年・学級で実施」の割合）						
	・教科書による学習（デジタル教科書を含む）	0.0	55.2	36.0	8.3	53.0	33.6
	・学校が作成したプリントなどによる学習（電子メールや学校のホームページなどを活用して配信する場合を含む）	7.4	59.8	41.7	8.3	56.6	39.8
	・同時双方向型オンライン指導を通じた学習	0.0	48.8	25.5	8.3	47.5	24.8

※第3期くまもと「夢への架け橋」教育プラン、「熊本の学び推進プラン」、「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関連する項目の中から抽出

2 – (3) 質問紙調査に関する成果と課題

【児童生徒に対する調査から】

- 基本的な生活習慣等については、小・中学校ともに、ほぼ国・県平均を上回っており、児童生徒の多くが基本的な生活習慣を身に付けている。
- 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等は、小・中学校ともに、すべて国・県平均を上回っている。児童生徒の多くが、落ち着いた生活を送るとともに、高い規範意識と自己有用感等が身に付いている。
- 地域の行事への参加や地域貢献の意識は、小・中学校ともに、国・県平均を上回っており、地域と連携した教育が進められている。
- ▲家庭での計画的な学習及び読書時間については、小学校は、国・県平均を上回っているが、中学校では、すべて国・県平均を下回っている。学習内容の確実な定着のためにも、今後、主体的な学習習慣を確立していくための手立てが必要である。
- ▲タブレット端末等の ICT 機器の活用については、小・中学校ともに、国・県平均を上回るほどの効果を感じているが、実際の授業での活用頻度は、国・県平均を下回っており、授業での十分な活用が図られていない。
- ▲主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善では、主体的な取組が県平均は上回っているが、小・中学校ともに国平均を下回っており、学習者主体の授業改善が十分進んでいない。
- ▲教科の授業内容について、小・中学校ともに、3教科ともほぼ国・県平均を上回るか同程度で「よく分かる」と答えているが、今回の調査での正答率とは乖離がある。学習内容の確実な定着に向け、更に授業改善を進めていく必要がある。

2 – (3) 質問紙調査に関する成果と課題

【学校に対する調査から】

- 学校運営については、小・中学校ともにすべて国・県平均を上回っており、校長のリーダーシップのもと、指導計画の作成や教育課程の実施など、組織的に対応できている。
- 小中連携については、小・中学校ともに、すべて国・県平均を上回っており、教育課程の接続や合同研修会の実施など、意識的に取り組まれている。
- ▲生徒指導では、小学校が国・県平均を下回っており、授業中の児童の学習態度に課題がある。学級経営力向上も含め、手立てを講じる必要がある。
- ▲授業改善に関しては、小・中学校ともに、すべて国・県平均を上回っており、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が実施できているが、今回の調査での正答率に結びついていない。
- ▲家庭学習については、小・中学校ともに、ほぼすべて国・県平均を上回っており、効果的な取組ができているが、児童生徒への質問紙調査からは、特に、中学校において、主体的な学習と学習時間の不足が明らかになっており、更なる取組が必要である。
- ▲ICT活用については、小・中学校ともに、ほぼすべて国・県平均を上回っており、活用ができているが、児童生徒への質問紙調査からは、実際の授業での活用頻度は、国・県平均を下回っており、活用場面、活用方法の検討が必要である。
- ▲全学調の結果等については、小・中学校ともに肯定的評価100%と確実に活用されているが、今回の調査での正答率には結びつくまでには至らず、今後も活用方法等の見直しを行いながら、継続的に取り組む必要がある。

3 今後の重点取組

○「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のさらなる推進」

- ・学校訪問及び指導主事活用等において、授業チェックシートを活用して指導を行う。
- ・児童生徒の主体的な学びを促すために、導入においては、児童生徒の「なぜ」「おそらく」（疑問や予想等）が生まれるよう指導する。
- ・自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう、児童生徒の「やってみよう」「なるほど」「きっと」（挑戦や納得等）が生まれる展開の工夫を行うよう指導する。
- ・具体的な単元終了時の児童生徒の姿から、本時のゴールの姿を児童生徒と共有し、自己の学びの振り返りを行うよう指導する。
- ・次時に向けて、児童生徒に本時の学びを基に何に取り組むべきかを考えるようにするとともに、教師は本時の学習状況を把握し、次時の指導に生かすよう指導する。
- ・管内の小・中学校の教員の授業力向上のために、教育長会議、校長会議及び研修会等で管内のスーパーティーチャー（指導教諭）（2人）の積極的な活用を促していく。

○「授業におけるICTの効果的な活用」

- ・学校訪問及び管内指導主事活用等において、くまもとGIGAスクールプロジェクトでの好事例等を示しながら、具体的な活用場面について指導を行う。
- ・管内の小・中学校における「授業におけるICTの効果的な活用」の実現の一つの指標として、令和4年度内に、管内の全小・中学校が日本教育工学協議会の学校情報化認定（優良校）申請をできるよう指導・助言を行う。

3 今後の重点取組

○ 「支持的風土のある学級づくり」

- ・ 学校訪問や管内指導主事活用事業等で、人権教育の視点から、一人一人を大切にし、児童生徒が安心して発言できる雰囲気づくりについて指導を行う。
- ・ 本年度新たに開始した、管内指導主事活用事業における「学級経営力向上研修」を積極的に活用するよう、市町村教育委員会及び各小・中学校への周知を強化する。
- ・ 学級集団の状況をチェックする「Q-U」及び「hyper-QU」等を各市町村教育委員会や各学校に紹介し、学級づくりに生かしていくよう働きかけていく。

○ 「家庭学習の推進」

- ・ 学校訪問や管内指導主事活用事業等で、本時の「振り返り」を基に、学力向上につながるための効果的な家庭学習について指導・助言を行う。
- ・ 学校訪問や管内指導主事活用事業等で、家庭学習における保護者の理解を促すとともに家庭学習や保護者のチェックについて工夫を行うよう指導を行う。
- ・ 各小・中学校での効果的な家庭学習の方法について、管内の小・中学校で情報交換できるよう、球磨教育事務所主催の研修会等で、情報共有の場を設定する。